



## 虫供養の準備

### 《1年間の様子》

今年の虫供養が終わると、次の地区への引継ぎが行われます。そして来年の秋分の日まで、いろいろな準備が行われます。

#### 引継ぎ式

引継ぎを受ける地区と引き渡す地区が、いねいに台帳を確認しながら、慎重に品物を箱に取めます。品物をなくしたり、壊したりしないように、とても緊張する儀式です。服装は、正装（黒い服、白いネクタイ）で行います。昔は、羽織袴で行われていました。

#### お紐解き

品物を引き継いだ地区が、品物の確認とともに、よく乾燥させて、収納する行事です。

#### 寒干し

1月頃には、「寒干し」という行事が行われます。この行事は大切に保管されている掛軸などを寒風にさらすとともに百万遍念仏会が行われる行事です。

#### 土用干し

7月頃には、「土用干し」という行事が行われます。掛軸などに暑い夏の風を通し、カビや虫食いを防ぐものです。また、「寒干し」と同様、百万遍念仏会が行われます。

#### 大塔婆建て

8月頃になると虫供養会場に建てる大塔婆の作成が始まります。大塔婆は松の木が使われます。今は大きな松の木が取れなくて苦労しています。10mほどの松の木を削り一文字ずつ銘文を書き入れて完成します。そして、白い布を巻き、大勢の人手と重機を使い、建てます。

#### 虫供養当日

花で飾られた虫供養会場は、幟が高くひらめき、百万遍念仏を同行衆によって唱和される「大道場」と、地区の人たちが鉦を鳴らし当番をする小屋が、一番小屋から八番小屋まで建てられます。会場に来た人たちは順番に小屋をお参りしていきます。

### 《当番地区の順番》

阿久比の虫供養は戦国時代には当番が決められており、現在は町内12地区が1年ずつ交代で行事をしています。町内12地区は次のとおりです。

草木 → 白沢 → 福住 → 板山 → 宮津 → 萩 ↓  
↑ 坂部 ← 卵之山 ← 阿久比 ← 矢口 ← 椋岡 ← 横松

# 虫供養ってなんだろう？



虫供養場のようす

## みなさんは「虫供養」がどんな行事か知っていますか？



虫供養は米作りや野菜作りで犠牲になった田畑の虫を供養するために念仏（ナムアミダブツ）を唱えることです。知多半島出身の良忍（1072～1132）というお坊様の教えが元になり、平安時代の終わり頃から阿久比でも行われるようになった民俗信仰行事です。

虫供養とは生き物すべての命を敬い、自然の恵みに感謝する大切な行事なのです。そして、この行事の大切さが認められ、昭和58年に愛知県の文化財に指定されました。

**行われる日** 毎年、秋分の日（9月23日頃）